



大淀中だより

学校教育目標「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和8年(2026)10月30日

校長 塩見 登

水城祭特集①(合唱コンクール編)

9月25日(金)呉竹文化センターにて合唱コンクールが行われました。春休みの会場手配に始まり、夏休み前から本格的に始動しました。今回の合唱コンクールは、昨年までの団合唱にするのか学年合唱にするのか意見が分かれたところもありました。最終的に学年全員が舞台の上で合唱するという方向で固まりそれに向けて始動しました。学年全員を舞台上にあげるための交渉も会場側とあったようです。たくさんの方々の目に見えない苦労も各クラスそして学年の見事な合唱のおかげで報われました。1年生の歌声に刺激を受けた2年生。3年生の歌声に心を奪われた1・2年生。そして最後の学年合唱では、涙されている保護者の方々もいたように見えました。～みんな 素敵な歌声をありがとう～



(1年生) 学年合唱 unlimited

1・4組 大切なもの 1・3組 あすという日が 1・2組 **変わらないもの**

(2年生) 学年合唱 桜の下で

1・2組 **旅立ちの時～Asian dream song～** 1・4組 心の瞳 1・3組 輝くために

(3年生) 学年合唱 生きている証

1・3組 **この日々を、この時代を** 5組 HEIWA の鐘 4組 **明日のために** 1・2組 あなたへ 旅立ちに寄せるメッセージ

水城祭特集②(体育祭編)

見事な晴天に恵まれた体育祭。大淀中学校恒例の全校ダンスでの準備体操に始まり、見事な選手宣誓と生徒会長の挨拶。競技が始まり、いきなりの全員リレーで大盛り上がり。どの競技も工夫を凝らして観客も楽しそうです。保護者の皆様方には、今年もスペースが狭い観客席になり申し訳ございません。本校のグラウンドの特徴と生徒と保護者の方々の導線を優先した座席とさせていただきます。合唱コンクールと体育祭を合わせた水城祭の総合閉会式の関係もあり、午後からの競技数は限られましたが、最初から最後まで生徒の皆さんは競技も応援も全力でした。勝負には、必ず勝ち負けがあります。しかし、常に勝ち続ける人はいません。逆に常に負け続ける人もいません。どちらも経験して成長していくのではないのでしょうか。勝ったときは GOOD WINNER へ。負けてしまったときは GOOD LOSER へ。

それが次につながると信じています。

学年種目 優勝 1年1・3組 2年1・2組 3年1・3組 総合優勝 赤団 のみなさん おめでとう!



水城祭特集③(閉幕 ナイスショット)



淀から世界へ(校長の独り言)～

国外脱出！我々、青年海外協力隊員は2年間に1度だけ海外への旅行が許されている（現在は制度変更あり）。しかし、旅行先は近隣諸国の比較的安全な国々である。福島県二本松で出会った世界で活躍する同志の視察が主な目的になる。もちろん、私もその制度を利用して近隣アフリカ諸国で活躍する隊員に刺激をもらうべく旅に出た。ちなみに、ジンバブエは政情不安により他国からの受け入れを拒否されていたので自分から赴くしか再会のチャンスはなし。限られた期間で出来るだけ多くの国を回る。ダイヤモンドの国、ボツワナ。世界最貧国と言われるマラウイ。黄熱病の予防接種がないと入国できないマラリア要注意のタンザニア。そして隣国ザンビア。噂通り、マラウイは首都ですらインフラ整備が行き届いていない。そこで活動している隊員に遅しさを感じた。タンザニアでは迷った。アフリカ最高峰キリマンジャロ登山をするか、セレンゲティで有名なサファリに参加するか？結局、5日間のサファリに参加。アフリカの大地、動物、自然、貴重な経験となった。しかし、もしかしてジンバブエも動物いっぱいいる？そもそも自分は、そんなに動物には興味がない？と感じた時間でもあった。旅のクライマックスは、タンザニアからザンビアへ陸路で渡るタザラ鉄道の旅である。ゆったりした鉄道旅は、おそらく京阪特急より速度は遅く故障のたびに名もなき場所で途中停車、自分が今どこにいるかが全く分からない状態が1日以上続くといったイメージである。そんな車内で事件が起こった。1部屋4人の1stクラス寝台列車には、私の他にコンゴ人、ウガンダ人が同乗していたと記憶している。故障停車し暇を持て余していたその時、いきなり部屋のドアが開き、一人の黒人男性が私の方を向いて何やら話しかけてくる。明らかにお酒を飲んで酔っ払っている感じ。列車の中に一人の東洋人が乗っていると聞きつけ私に絡みに来たのだ。だんだん口調が激しくなり、英語がよくわからない私でもわかるような差別的な発言でケンカを売ってきている。さすがの私もあまりにひどい差別発言にイライラを隠せない。しかし、海外でケンカをすることほど不利なことはない。味方がいないのだ。その時、同室のウガンダ人が勇敢にもその酔っ払いに立ち向かって私を助けてくれたのだ。肌の色、生まれた国や場所、みんな違って当然。違いがあるから面白い。素晴らしいこともたくさん、嫌なこともたくさん。けど、思い出だけで目頭が熱くなる。なんでだろう？喜怒哀楽ストーリー2周目に続く！！？